

【資料（史料翻刻）】

## 原耕関連文書（一）

―南洋庁からの委嘱文書とその報告書（その一）―

福田 忠 弘

一 序並びに解題

二 【文書一】（南洋庁から原耕への委嘱文書）

三 【文書二】（原耕から南洋庁への報告書）

### 一 序並びに解題

原耕は、明治九年（一八七六）年に現在の鹿児島県南さつま市坊津町（当時の鹿児島県川辺郡西南方村）泊に生まれ、明治三十七年に枕崎に医院を開業しながら、自らは鯉の南方漁場開拓のために蘭領東印度およびフィリピンの海域を中心に三回の南方漁場開拓を行なった人物である<sup>1</sup>。第一回目は昭和二年六月一日から十一月二十五日まで、第二回

キーワード 原耕 南洋漁場開拓 南洋庁 インドネシア（蘭領東印度） 鯉漁 アンボン

1 原耕の衆議院議員としての業績については、拙稿「南方漁場開拓者・原耕の帝国議会における議員活動をめぐって」『研究年報』、第四十二号、二〇一一年、七十五〜九十六頁を、アンボンにおける漁業基地建設計画については、拙稿「南方漁場開拓者原耕のアンボンにおける漁業基地建設計画（昭和二年〜八年）」『商経論叢』、第六十二号、二〇一一年、一〜三十四頁を参照のこと。

原耕関連文書（一） ―南洋庁からの委嘱文書とその報告書（その一）―

目は昭和四年六月一日から十二月八日まで、第三回目は昭和七年十二月三日に鹿児島を出発し、翌年八月三日にアンボンで客死した。原の南洋漁場開拓の特徴は、鹿児島県枕崎から自らが建造した漁船に乗り込み、日本人漁師を引き連れて現地へ漁を続けながら調査を行なう点である。さらに原は昭和五年、単身蘭領東印度に渡り、現地の日本領事館と連絡を取りながら現地の関係者と漁業権の問題等について交渉も行なっているので、この交渉を通して当時の蘭領東印度の日本領事館の水産業に対する見解が明らかになっている。

原は衆議院議員を二期(途中落選一回)務め、第二回、第三回の南方漁場調査は衆議院議員在任中に行なわれている。そのため、原の南洋漁場開拓は、当時の外務省通商局、拓務省拓務局、農林省水産局と連絡を取りながら行なわれたためにいくつかの資料が残されている。

原に関する一次資料で一般に閲覧できるものとしては、国立公文書館の文書<sup>2)</sup>、外務省史料館に所蔵されている外交文書<sup>3)</sup>、帝国議会における速記録<sup>4)</sup>がある。

しかしこれ以外にも原の末裔が現在まで保管していた資料が存在している。そのうちの一つが本稿で紹介する南洋庁からの委嘱文書とそれに対する報告書である。「文書一」は、当時の南洋庁が原に対して、日本が委任統治していた南洋群島からセレベス、ハルマヘラ、アンボンへの航路開設の調査を指示していたこと示す資料である。原が南洋庁から何らかの委嘱を受けていたことは、国立公文書館の資料等で明らかになっているが、その委嘱内容はこれまで

2 「故原耕位記追賜ノ件」『叙位裁可書』昭和八年、叙位巻二十三(国立公文書館所蔵、本館2A-017-00・叙01162100)。

3 例えば、JACCAR(アジア歴史資料センター)Ref:B09042714200 本邦漁業関係雑件/南洋漁業関係(印度並濠州沿岸ヲ含ム)第三巻(外務省外交資料館)がある。

4 例えば、「第五十六回帝国議会衆議院噸税法中改正法律案外一件委員会議録(筆記速記)第一回」(第五十六回帝国議会衆議院噸税法中改正法律案外一件委員会議録(速記)第二回)、「第五十六回帝国議会衆議院噸税法中改正法律案外一件委員会議録(筆記速記)第四回」などがある。

不明であった。この「文書一」によつて、南洋庁の原に対する委嘱の内容が明らかになった。「文書二」は、「文書一」で明らかにされている委嘱に対する報告書の控である。この報告書は単に南洋群島とセレス、ハルマヘラ、アンボン間の航路開設に関する見解のみならず、当時原が、アンボンにおける漁業基地建設計画についてどのような見解を持っていたのかが明らかにされている。原はアンボンにおいて鯉節の製造だけではなく、鯉の缶詰の製造、魚粉の活用などを考えていたことが明らかにになり、それもかなり具体的な計画だったことがこの文書から判明した。

「文書一」、「文書二」とも原本ではタイトルがつけられていない。翻刻に当たつて、各文書の仮のタイトルを翻刻者によつて丸カッコで補つた。また、字体は原本のままとし、太字等のスタイルも原文のままである。句読点などは補っていない。パソコンで表記できない漢字に関しては、●字で記しカッコを付して説明し、翻刻者によるものであることを注書きした。

本稿は、鹿児島県立短期大学地域研究所の共同プロジェクト「鹿児島南薩地域のカツオ漁とその文化」による研究成果の一部である。

この貴重な資料の公表を快くご許可いただいた原拓氏に深甚の謝意を表したい。

## 二 「文書一」(南洋庁から原耕への委嘱文書)

指令秘乙第二號

原 耕

蘭領東印度モロカス洲方面ノ漁業調査竝南洋群島ヲ基點トシテセレベス、ハルマヘラ諸島及アンボン<sup>アムボン</sup>各地間ノ航路開設ニ必要ナル調査ヲ委囑ス

右調査手當トシテ金千五百圓ヲ支給ス但シ左記各項ノ通心得ヘシ

昭和七年十一月十二日

南洋廳長官 男爵 松田正之 印

記

第一條 調査ニ關シ政府委囑ノ事實ハ嚴秘ニスヘシ

第二條 本調査ニ關シテハ大体別紙調査項目ニ依リ調査スヘシ尚調査項目以外ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ適宜

報告スルコト

第三條 調査ノ結果ハ昭和八年三月末迄ニ報告スルコト

第四條 調査報告ニ關シ不十分ナリト認メタル事項ニ關シテハ再調ヲ命スルコトアルヘシ

三 〔文書二〕(原耕から南洋庁への報告書(控))

報告書

昭和七年十一月十二日付指令秘乙第二號ヲ以テ蘭領東印度「モロカス」洲方面ノ漁業調査竝南洋群島ヲ基點トシテ「セ  
レブス」「ハルマヘラ」及「アンボン」各地間ノ航路開設ニ必要ナル調査御委囑ノ件左記之通及報告候也

昭和八年三月二十日

アンボイナ市外カンボンラハ

原耕

南洋廳長官 男爵 松田正之殿

目次

第一 一般漁業ノ狀況

(イ) 水産生物ノ種類及分布ノ狀況

(ロ) 海洋ノ状態

(ハ) 漁獲物利用及需給ノ状態

(ニ) 將來出漁又ハ移住漁業ニ對スル注意

第二 資本的事業ニ適スル漁業

(イ) 乾製品及罐詰類ノ歐米諸國向製品ノ調査

(ロ) 漁業經營方法及其ノ收支見込等

第三 水産業ニ對スル政府施設及關係法規

第四 航路關係

航路ノ選定、港湾及港湾設備、出入港規則、荷役對外運賃率、其ノ他

第五 本邦輸入關係

物産ノ種類、集貨量、取引習慣、取引商其ノ他

第六 蘭領向輸出關係

取引有望ナル商品ノ種類、量、價格、取引習慣、取引商其ノ他

第七 取引ニ必要ナル通信竝ニ金融機關

第八 航路ノ經營方法、事業ノ収支見込等

第九 貿易ノ方法及其ノ収支見込等

一般漁業ノ狀況

總テノ漁業幼稚ニシテ技術漁具船舶ニ至ツテ採ルヘキモノナク少クトモ日本ノ五十年前ヲ聯想セラル、程度ニ在リ「マニラ」ニ於ケル同胞ノ活動「シンガポール」「バタビー」「マカツサル」「メナード」等ニ於ケル同胞ノ漁業ハ壓倒的ニ隆盛ヲ極メテ居ル即チ土人漁業トノ競争場裡ニ於テ優勝シテイル事實ニ徴シテ睹カデアル「ブートン」地方ノ土人製塩魚ノ生産ハ少量ナラスト雖モ之レ漁業ノ發達妙技ニ因スルニアラスシテ漁場ノ優良ナルニ結果スルカ如シ即チ投網以外ノ漁網等ハ存在セサレハナリ土人漁業ノ進歩シタルハ寧ロ東方「アンボイナ」港ト曰ハネハナラヌ巾着網拾余張ガ常用セラレ鯨「サヨリ」鰯等漁業ノ見ルヘキモノアリ然ルニ生産力ハ市民ノ需要ニ供スルニ止マル「マカツサ

ル「メナード」「バタバ」等ニ於テハ同胞ノ活躍ニ刺戟セラレ側力ニ教養セラル、所アツテ早晚進歩スベシト雖モ本来怠民ノ土人トテ速急ニ向上スルコトハ疑問タルヲ免レス偶々蘭本國人ノ率先從事スルモノアルモ土人指導ノ他ニ實蹟ヲ擧クルハ殊ニ澁難ナルベキヲ信ス水産臨験場ハ完備シ水族館ヲ有シ當局ノ指導努力ハ感嘆ニ堪ヘザルモノアリ日本人漁業ノ旺盛ナルハ「シンガポール」及「マニラ」等ヲ算スベシ近年「タワオ」「メナード」等ニ鯉漁業開始サレ居レリ之等ノ総テハ都市民ノ需求ニ供スルヲ主トシ生産額モ尚ホ微々タル程度ニ在リ夫等ノ凡テカ日本ニ於ケル一漁村ノ産額ニ比較スベク營業資金ヲ省ミルモ恐ラク南洋方面ヲ合算シテ百萬圓ニ上ラサルベシ然モ魚族豊富ニシテ海上平靜暑熱又甚シカラサル天恵ノ地其無限ノ寶庫ノ開カレタル状態トシテハ尚ホ寒心ニ耐ヘサル所ニシテ過去現在ニテハ吾同胞ノ業モ僅カニ其一步ニ入りタルニ過ギザルモノト曰フヘキデアル

(イ) 水産生物ノ種類及分布ノ状況

南洋ニ於イテハ廣汎ナル處女漁場ノ存在シ殊ニ豊富ナル魚族ヲ有ス而シテ其種類ハ實ニ多様ニシテ幾百種ナルヲ識ラザルモ恐ラク日本ノ八百余种以上ナルヲ認メザルヲ得ス即チ幾十年ノ久スキニ涉タリ吾人ノ知ルモノ存セサルナキヲ以テナリ魚族ノ浮遊ニ深海淺海ノ別アルハ勿論ナルガ「スマトラ」「ジャバ」以北ノ淺海及「ニューギネア」ノ南及西「ミソール」島附近并ニ北濠洲ノ沿岸等ハ淡水魚多ク「バンダ」「モロッカ」「フロレス」海「ジャバ」西北「ポプア」北ノ深海ニテハ鯉鮪サワラ等ノ青色魚類ヲ主存ス又東「アラフラ」海及「ミソール」ノ週圍ニハ西部海洋ト同シク淺海魚族多シ眞珠貝高瀬貝其他ノ介殼海崖海草鼈甲寒天等ハ印度洋ノ一部存在ニ比シ東印地方ノ専有ノ如ク多存ス

何レノ海洋ニ於テモ一種ノ魚族豊富ナルトキハ総テノ魚族皆之ニ準在ス小ハ「プランクトン」ヨリ大ハ稚魚幼魚ニ至

リ皆飼料トナル即チ弱肉強食ハ勿論生長ノ時期ニヨリ交換食料ノ状態ヲ演シ新陳代謝以テ生存ノ道ヲ採ルモノ、如シ若シ之カ平衡ヲ失スル時ハ生ヲ傷ヘバナリ

鯉ノ最モ恐ル、モノハ旗魚(カジキマグロ)ナリ然ルニ「カジキ」ノ稚魚ハ鯉ノ胃底ニ発見スルコト多シ「スルメ」ハエビヲ常食スルモ自ラハ魚ノ餌料トナル斯ノ如キ状態ハ魚族ノ常時ニシテ海藻其他ノ昆虫等ヲ食餌スルハ寧ロ主食ニアラザルヲ信セントスルモノタリ元ヨリ沿岸ニ堅石アレバ之ニ附着スル海藻アリ此海藻ヲ好ム魚族ノ集住スルハ必然ニシテ之カ習性ト認メラル、程ニ所在ハ一定サル、モノナルガ同時ニ甲乙丙丁ノ關聯魚族ヲモ伴ヒ共存スルモノナリ

沖繩以南ノ至ル所ノ浅海岸礁ニ毒魚(田中茂穂氏著圖譜)ナルモノアリ吾人ハ「アカナ」ト稱ス濠洲ニテハ「スナツプ」(英)ト云フ薩摩沖繩ニテハ之ヲ食スル人尠ナシ中毒ヲ恐ルレバナリ然ルニ基隆ノ市場ニテハ高價ニ販賣サレ「パラオ」ニテ又之ヲ賞味ス「アンボイナ」ノ如キ實ニ唯一ノ魚味トシ賞揚セラル濠洲ノ東ニ「ポイゾン」アイランドナル島名アリ此附近ノ魚貝ヲ採ル人ナシ之レ又中毒ヲ恐ルレバナリ故ニ此稱名アリ同一ノ魚族ニシテ或ハ中毒ヲ致シ或ハ賞味セラル、ヲ見ルノ時蓋シ毒素ハ固有ニ非ラザルヲ識リ後天的海藻類等ノ食餌ヨリ来リシヲ明力ニス

例ヘバ「メジナ」ハ夏季ニ黒虫ノ発生ヲ好ムモ冬ハ海藻ヲ求ムルノ止ムナク時ニ「エビ」「コカイ」魚肉及植物性餌料ヲ採ルカ如シ

鯨アツテ鯛アリ鯉アリテ稚魚幼魚アリ豈鯛ナクシテ鯉アルノ理由ハ事實ニ於テ存セサルナリ同時ニ微生物アツテ鯛アルハ勿論ナリトス「セレベス」海ハ深海魚族ヲ有ス「ボルネオ」海峡ニハ深淺海ノ魚族アリ東海岸ハ就中「アオリイカ」ノ發生ニ富ムガ如シ南「ブートン」附近ハ小魚及底魚ノ産地ニシテ有望ノ魚場タリ一度ラハ島海峡ヲ航スルアラバ水面無數ノ魚族ノ浮遊ハ實ニ驚クニ足レリ



英領北「ボルネオ」ノ「タワオ」ハ同胞ノ鯉漁業ノ所在地ナルガ東ハ「スル」海南ハ「セレベス」海ニ連リ深海魚族ニ富ム其他ハ一般ニ浅海ニシテ然モ遠浅ナルコトハ漁業ニ不適タリ北ハ「リーフ」多ク底魚アリ西南沿岸ハ砂地ニシテ「エビ」類存在セリ之等ノ手繰網ノ使用ハ有望ナリト信ス就中「バリパパン」附近ハ需用ヲ充タスニ足ル漁業ノ存在ナシ

「ジャワー」ノ北ハ一般ニ浅海ニシテ五十尋未満ノ海洋多ク常ニ混濁シテ汚灰土色ヲナス「エビ」「スルメ」平鯨「ソータ」等其他底魚ノ一班ヲ存在セリ南ハ深海ナルヲ以テ鯉鮪ノ類多シ

「モロツケン」洲ハ「セラム」「ブル」「ハルマヘラ」等ノ「モロツケ」海ニ散在スルモノナルガ「ハルマヘラ」ノ東岸ハ底魚多ク「イセエビ」ノ存在ノ如キハ恐ラク南洋唯一ナリト信ス「ミソール」ノ周圍ハ底魚甚タシク棲息シ且ツ鯛ヲ産ス「ブル」ノ西及北ニ於テハ鯨ノ浮遊ヲ見ル「ニユーギネア」ノ面積ハ頗ル廣大ナルヲ以テ沿岸里程モ長シ從テ深浅海ノ魚族夥シク南方ニ眞珠貝<sup>マ</sup>アリ東「ピスマーク」群島附近ノ鼈甲ハ少カラス一度「カイマナ」近海ヲ視ル時ハ海面ニ飛躍スル魚族ハ正ニ雄<sup>マ</sup>壯ニシテ珍無類ノ別世界ヲナスノ觀アリ「タネンバア」ノ「ナマコ」「ゲセル」近海ノ海草至ル處ニ鮫類多ク河川又魚族多シ「スラバヤ」ノ養魚場ノ如キハ見ルニ足り成績又良好ナリ

以上ハ極メテ概略ノ分布ヲ記述シタル次第ナルガ余ガ過去ニ又最近ニ調査シタル例ヘハ「ニユーギネア」ノ南「アロウ」「一名ロボ」其西南ニ位スル「タネンバー」其北ニ於ケル「ケイ」列島或ハ「ニユーキネア」ノ西ニ在ル「ミソール」群島其南ニ當ツテ「セラム」夫ヨリ西南ヘ延ヒテ「ボアー」「バビー」島「ケイラン」「マニパ」「ブル」「アンピラン」又「アンボン」島ノ東ニハ「ハルコ」「サパルア」其東南ニ「バンダ」列島其ノ西ニ「ルチヘラ」群島其他無数ノ離島「セレベス」ノ一圓「サンギル」群島「タラオ」列島「ハルマヘラ」ノ一圓等無数ノ島嶼ニ對シ一々地理地勢上ヨリモ海流潮流ノ關係ヨリ沿岸魚族ハ勿論人類ノ生活萬端ニ涉リ實視シタノテアルガ左リトテ底魚種類其分

布或ハ鯛ノ産地ナドヲ比較シテ漁場ノ優劣ヲ論シ殊ニ産業的見地ヨリ是非ヲ公表シ世ヲ誤ラザル的確ノ報告ヲ致スニハ尚ホ達セザルノデアル即チ余リニ面積ノ多大ナルノ故ニ短日月ニ之レヲ究ムル能ハサルハ勿論土人ハ語ルニ足ラズシテ調査上参考シ且ツ便益スルモノナク從テ時間ト費目トヲ過分ニ要スル事ニナル然ルニ營業ノ傍ヲ調査ヲ決行シ微ニ入り細ニ涉リ研究知悉スルコトハ尚ホ數年後ノ懸案テアル其幾分ニ於テハ精査ヲ得タルモノナキニアラサルモ大海ノ一滴ニ外ナラヌノテアル水七分魚三分ノ「サルサワ」ノ池ノ鯉魚ヲ覗キ妙ノ浦ノ鯛ヲ見ルカ如クニ容易ナモノニアラス僅力ニ一哩ノ周邊ヲ有スル小島ニテモ魚道及住所ハ一定シ彌漫性ニ分布サレイルニアラズ一部ニ限り濃厚ニ存在スルガ常デアル之ヲ發見スルモ甚ダ困難ニシテ況ンヤ種類分量ノ断定ニ於テオヤデアル

(口) 海洋ノ状態

海流

北東恒風ニ因ル北太平洋ノ偏西赤道流ハ其ノ東側ニアリテハ北緯二十五度ヨリ又亜細亞諸島ニ近接スル部ニアリテハ北緯二十度ヨリ孰レモ赤道ニ向ヒテ擴ガレリ南東恒風ニ因ル南太平洋ノ偏西赤道流ハ一般ニ南ハ南緯二十度乃至二十五度ヨリ北ハ赤道ノ著シク北方迄擴カリ其ノ最南境界ハ洋ノ亜米利加側ニ在リ

此等海流ノ赤道附近ノ部ハ殆ント正西ニ向ヘルモ其間ニ逆赤道海流アリテ反對方向ニ流レル時ニ頗ル強勢ナルコトアリ

逆赤道流ノ境界ハ明確ナラスト雖モ常ニ赤道ノ北方ニアルモノ、如ク一般ニ北緯四度乃至九度間尚ホ一層正確ニハ北緯五度乃至八度間ニ存ス而シテ其ノ勢力ハ時々赤道迄及ブコトアリト雖モ其幅五度ヲ超ユルコトナシ

逆赤道流ノ速サハ二分ノ一乃至二節ニシテ流速ノ变化大ナリ且ツ從來知ラレタル範圍ニ於テハ季節ニ依リテモ亦变化

アリ五月乃至十月ノ期間ハ強クシテ残余ハ半年間ニ弱ク時ニ反流無キガ如キコトアリ

「モロツカ」海峡ノ海流

海流ハ風向ニ順ヒテ流レ其ノ勢モ亦風力ニ左右セラルコト大ニシテ稀ニ一時間ノ流速一節ヲ超ユルコトアリ北半球ノ北東信風中海流ハ「ジロロ」西岸ヨリモ「セレベス」東岸ニ於テ強ク南半球ノ南東信風中「セラム」北岸ニ接シテ反流ヲ生ス

「バンダ」海及「アラフラ」海ノ海流

南東信風中海流ハ「ニューギニア」西岸ニ沿ヒ又「ケイ」「アルウ」兩諸島間ヲ北西ニ流レソレヨリ「セラム」南岸ヲ西方ニ沿流シ其ノ流速ハ風力ト消長ヲ共ニシ一時間一若ハ一哩二分ノ一ニシテ「ニューギニア」沿岸ニ於テ最強ナリトス同風季中「チモア」「タニンバ」群島ノ中間ナル「サーマタ」島北側ニテハ偏東海流行スルヲ以テ速力普通ノ帆船ハ信風ニ向ヒ間判業不能ルコト毫モ困難ナラサルヘシ北西信風中「バンダ」海及「アラフラ」海ノ海流ハ風向ト其ノ流向ヲ同シクス

潮汐

本区域内ニ於ケル潮汐ハ極メテ複雑ナリ其ノ大要ヲ記セハ次ノ如シ

春秋ノ朔望前後ニ於テハ毎日略規則正シク二回ノ低潮ト二回ノ高潮トアリ太陰ノ子午線經過時ヨリ高潮時ニ至ル迄ノ時間（朔望高潮）ハ「バンダ」海及「モロツカ」海ニ於テ約一時ナレドモ北ニ進ムニ從ヒテ次第第二大トナリ「モロツカ」海峡及「ジロロ」海峡ノ南口附近ニ於テ約三時間北口附近ニ於テ約六時トナル又「バンダ」海ヲ南東方ニ進ムニ從ヒテ太陰ノ子午線經過時ヨリ高潮時ニ至ル迄ノ時間ハ次第第二大トナリ「アル」島ニ於テ約二時「フレテリツクヘン」ヂング」島北西岸ニ於テ約六時トナル而シテ昇降ハ「バンダ」海ニ於テハ約五呎ナレトモ「モロツカ」海峡及「ジロロ」

海峡ノ南口附近ニ於テハ二乃至三呎ニ減ジ此等海峡ノ北口附近ニ於テハ増大シテ四乃至五呎トナル又「ニューギネア」ノ北西岸北部ニ於テハ昇降ハ稍大ニシテ特ニ *Macter inlet* ノ奥ニ於テハ十六呎ニ達ス「アラフラ」海ノ北半沿岸ニ於テ昇降四乃至七呎ナリ春秋ノ朔望前後ヲ除ク外ハ日潮不等アリ即チ相次ク高低潮ノ時及高サハ一樣ナラス一般ニ潮汐ノ性質トシテ日潮不等ハ太陽ガ赤道ヲ隔ツルコト最大ナル頃(春秋ニハ兩弦ノ頃)ニ最モ著シク太陽ガ赤道附近ニ在ルトキ(春秋ニハ朔望ノ頃)ニハ比較的ニ小ナリ「アラフラ」海北半「バンド」海「モロツカ」及「ジロロ」兩海峡ノ北口附近ニ於テハ高低潮共ニ時及高サニ不等アリ相次クニ高潮及相次クニ低潮ノ高サニハ一乃至二呎ノ差ヲ見ルコトアリ而シテ高キ高潮ノ次ニ低キ低潮トナル此ノ高キ高潮ハ春季ニハ午後ニ夏季ニハ晝間ニ秋季ニハ午前ニ冬季ニハ夜間ニ起ル「ジロロ」海峡及「モロツカ」海峡ニ於テハ潮汐ノ性質ハ場所ニ依リテ著シク異ニシテ且複雑ナリ此等海峡附近ニ於テハ夏冬ノ小潮時ニ於テハ昇降甚ダ小ナリ之ハ要スルニ本區域内ニ於テハ日潮不等稍大ナルモ概ネ一日ニ回潮ニシテ一日一回潮トナルコト稀ナリ

## 潮流

本區域内ニ於テハ風ニ從ツテ流ル、海流アルヲ以テ海潮流ハ甚ダ複雑ナリ

「ミンダナオ」ト「セレバス」トノ間ノ諸島附近ニ於テハ一般ニ漲潮流ハ西方ニ落潮流ハ東方ニ向テ流レ略高低潮時ニ轉流シ狭水道ニ於テハ流速大ナリ「モロツカ」海峡ノ北半ニ於テハ潮流ハ地形ニ從ヒテ南北ニ流レ北流ハ低潮後ニ乃至三時ヨリ高潮後ニ乃至三時迄南流ハ高潮後ニ乃至三時ヨリ低潮後ニ乃至三時迄流ル、モノ、如シ「ジロロ」海峡ニ於テハ漲潮流ハ北方ニ落潮流ハ南方ニ向フカ如キモ潮時ト轉流時トノ關係明カナラス

「バンド」海ノ西半及「モロツカ」海ニ於テハ潮流ハ地形ニ從ヒテ南北ニ流レ北流ハ低潮後ニ乃至三時ヨリ高潮後ニ乃至三時迄南流ハ高潮後ニ乃至三時ヨリ低潮後ニ乃至三時迄流ル、モノ、如キモ狭水道ヲ除ク外ハ流速大ナラス又

「バンド」海ノ東半及「アラフラ」海ニ於テハ潮流ハ一般ニ南東方及北西方ニ流レ南東流ハ低潮後一乃至二時ヨリ高潮後一乃至二時迄ニ至ルモノノ如シ「ダンピール」ストレイトニ於テハ漲潮流ハ南西方ニ落潮流ハ北東方ニ流レ流速甚ダ大ナルガ如キモ風ノ影響ヲ受クルコト甚タ大ニシテ高低潮時ニ對スル轉流時ノ關係明ナラス然モ満月ノ中天ニシテ干潮ナラサルコトアリ日ニ一回ノ満干アリ或ハ貳回ノ時アリ廣大ナル海洋ノ價値トシテノ変化ハ雜多ニシテ赤道ニ近キ天文上ノ關係ハ複雜ヲ伴ヒ一般ニ明カニスルニ至ラサルモノアリ又止ムヲ得ザル所タリ

風候及天候  
南半球ノ夏即チ十一月乃至三月期間東叢島ノ風ハ赤道北部ニ於テ主トシテ偏北風又ハ偏東北風ナリ又北半球ノ夏即チ五月乃至九月期間ハ南東信風流行シ赤道北部ニ於テハ偏南トナル然レトモ高峻ナル諸島ノ存在ニヨリ風候ニ局地的變化アルベシ

信風ハ強吹セサレトモ定吹シ時ニ不定風起リ之レト關聯シテ陣風雷雨ノ襲来スルコト多シ十月及十一月ハ風候不定ノ月ニシテ偏北信風ハ十二月ニ至ル迄定吹セス南東信風ハ北部ヨリモ南部ニ早ク吹来シ北西信風ノ吹来ハ南部ヨリモ北部ニ於テ早シトス一般ニ降雨激甚ニシテ年中時ヲ選ハスシテ到ルコトアリト雖モ北部諸島ニアリテハ五月乃至八月間ニ最モ多雨ニシテ南部諸島ニアリテハ十一月乃至二月間最モ多雨ナリ然レトモ豪雨ハ流行信風ニ直接暴露スル海岸ニ起ルカ如キヲ以テ地表ノ高キ諸島ニアリテハ海岸ノ形貌ハ降雨ト密接ナル關係ヲ有ス故ニ北西信風中ハ北西岸ニ又南東信風中ハ南東岸ニ降雨多シ同時ニ其風下側ノ海岸ニアリテハ快晴ヲ見ルベシ

「アンボン」島ノ就中「ラハ」村ノ如キハ常ニ涼風颯爽トシテ来リ七八月ノ雨季ニ於テ「ラハ」村ノ氣温六十二三度ヲ現ハシ郷國ニ於ケル初冬ノ如シ十二月一月ハ夏季ニ相當ス九四五度ニ至ルモ夜間ハ常ニ冷氣ヲ覺ヘ室内ニテハ發汗ヲ見ルニ至ラス暑熱ヲ感スルハ毎日正午ヨリ午後三時ノ間ニシテ四時ニ至レバ全ク消失シ實ニ佳良ナル氣温ニシテ

健康地域ナリト認ム

(八) 漁獲物利用及需給ノ状態

南洋人ハ魚食ノ人種ナリ「マホメツト」教党多数ノ故ニ猪豚ヲ採ラス彼等ハ日常魚肉ヲ賞用ス都市ニ於テハ土人及日本人ノ漁業者ヨリ之ヲ求ムルモ僻遠ノ巷部落ノ民ハ自ラ漁シ之ヲ補フ此地ノ法規ニ凡テノ土人ハ皆漁民タルコトヲ得フト記載セリ至ル處ニ自給ノ漁者尠カラス然シ未開ノ地ナルヲ以テ製品ヲ認ムベキモノナク火乾塩魚等ニ限定セリ或ハ樹皮ニ包ミ燻乾天麩羅ノ如キモノアリ罐詰類ノ如キハ総テ輸入品タリ鯛ノ産地タルニ係ハラズ遠ク米国ヨリノ製品ヲ用ユルアリ余ハ昭和五年「ジャワー」「ボルネオ」「マニラ」「アンボン」等ヲ調査シタルニ罐詰及塩魚乾魚等ヲ合シテノ輸入金額八年約參千萬圓ニ達スルヲ知り拓務省ヘ報告セシガ如シ塩魚ハ彼等ノ好ム処ナルモ食塩ハ官業ニシテ産ズ「マニラ」ニテハ「ポンド」十二錢内外ニシテ蘭印ニテモ産地以外ハ百目八錢程度ナリ蘭印ノ食塩ハ官業ニシテ産地「マカツサル」東「マツラ」島ノ如キハ原産地ノ故ヲ以テ二錢位ノモノガ産地以外ノ「ボルネオ」ノ如キ「アンボイナ」ノ如キハ輸出入ノ税金并ニ輸送費ノ点ヨリ八錢以上十二錢位ニ上ルノテ從テ塩魚ノ如キモ製造スル者ガナイ原料ノ存在多大ナルニ及ンテ加工製品其販売ニ及ハサル以所ノモノハ人智尙ホ進マサルノ為メト考ヘラル、當分ハ凡テ輸入ヲ免レナイコトヲ信スル

(二) 将来出漁又ハ移住漁業ニ對スル注意

遠洋漁業タルト移住漁業タルトヲ問ハス近キ将来ハ必然漁業ノ總テガ南方ヘ向ツテ動員サル、モノナルコトハ豫言ヲ憚ラス余ノ常ニ發表セシ如ク沿岸近海魚族ハ採リ減リナリト信スルヲ以テ代用ノ新漁場ヲ求ムルノ外ナク即チ漁民生

活ハ遂ニ南進スルノ他ニ對策ヲ認メヌカラデアル

母船式漁業或ハ遠洋漁業ト根據地漁業トノ比較ハ營業上ノ場面ヨリ見ルナレバ簡單ナリト雖モ地理的ノ立場ヨリ國際上ノ關係ヨリ餌料問題魚族ノ習性即チ漁撈種別ヨリ考察スルトキハ頗ル難解デアル然シ何レノ時代何レノ國ニ於テモ兩者共ニ併進シテイル或ハ兼業サレテイルノテアル離ル可ラサルモノモアルノデ又夫レデナクテハナラヌ

何レニシテモ南方漁場ノ隆盛ヲ期スルニハ公海ノ漁業タルニモセヨ其附近ノ國々ト全ク隔離シテハ困難テアル故ニ南洋ノ多分ハ蘭領テアリ其漁場ノ富有ナル蘭領ト合辨提携シテ進メルコトハ最モ適切ナリト信シタルヲ以テ昭和二年以來此ノ解決ニ没頭シテイルナレド不況ト共ニ尚ホ達成ニ至ラサルハ遺憾ニ堪ヘナイ所テアル漁業ノ就中主ナル大敷網業ハ定置漁業ニシテ沿岸漁業テアル鮪延縄業ハ公海ナリトシテモ其餌料ハ九分通り沿岸ニ求メネバナラヌ又鰹ニシテモ同様テアル時ニ飲料水ヲ求メ薪炭ヲ積ミ日常品ヤ種々ノ要件ハ附近ノ陸地ニテ為サネバナラヌ事ガ多イ必ス附近ノ民族ト親和ヲ策ルニ力メネバナラヌ

殊ニ移住漁業ニ於テハ日夕外領ナルヲ忘レナイコトハ大切デアル其土人ノ外人ナルコトヲ苟モ失念シテハナラヌ更ニ吾人ハ日本人デアリ帝國ノ現民トシテノ責任感ヲ有シ赤誠ヲ以テ當事セネバナラヌ個人外交ノ宜シキヲ得テ國威ノ發揚ニ努メネバナラヌ有色人種ノ範ヲ示シ彼等ヲ指導セネバナラヌ又而シテ東洋民族ノ和平ヲ求メネバナラヌ

由來吾國ハ海國ナルニ拘ハラズ海外ニ於テ「ホーム」シツクヲ起スコトノ現著ナルハ甚ダ残念デアアル之レヲ防遏スルニハ家族制ノ移住ヲ採ルカ乃至ハ生活ノ萬端カ保証サルノ様ニセネバナラヌ通信機關ヲ進メテ連絡ヲ密ニセネバナラヌ又交通ノ距離ヲ短縮セシメネバナラヌ又遠洋デナイ様ナ心持ノ出來ルベク仕向ケネバナラヌ

「アンボイナ」ノ二千五百哩ハ速力アル船舶ナレバ五晝夜ノ航程テアル一ヶ月ヲ經テ新聞紙ニ接スル今日ノ様テハ「ホームシツク」ノ療法トナラナイ

歐洲戦争後ハ高ク止マツタ向フノ婦人連モ容易ニ熱帯地へ嫁スルニ至リ吾娘子軍ハ自然排斥ノ状態ニ変ジ旅行サヘ澁難トナリシヲ以テホームシツク特効薬ノ品切レト時代ハ化ツタノテアル事実日本ノ外交力眞ニ自主的ニ出ツルナレバ娘子軍デモ自由ニ旅行力出来ル様ニ今ヨリハ斯卡ル点ヲ考察シテ貫ハネバナラヌホームシツクノ程度如何ヲ曰フナレバ病人ト断スルニ至ラヌマデモ作業仕事ノ能率ニ渺カラス影響スルコトヲ的確ニ實驗スルカラテアル漁夫ノ脚氣ニハ体格栄養佳良ニシテ然モ頑丈ナル青年ニ多シ何カ新陳代謝ノ関係存在セサルカ餘計ノコトナガラ「ウ井タミン」Bノ不足ナリト思ヘヌ節モアル即チ「アンボイナ」西方ニ「ブル」ト名ツケル島嶼ガアル茲ニ行クナレバ土人連モ必ズ脚氣トナル者ガ多イ研究ノ餘地ガ残サレテイルノデハナカロウカ

若シ夫レ「パラオ」ノ無線ガ吾人ノ通信ヲ中継ススルノ時代ヲ得ルナレバ仕合デアル政府モ事業家モ合力シテ「パラオ」ノ一圓ヲ充滿スル程ノ水産工場ガ開設サレ生魚賣収ノ看板ガ掛ケラレタナラバ日本ノ漁民ハ自ラ期セスシテ集マルデアロウ公海ノ自由ナルノ意義ヲ始メテ了解スル事ニナロウ外領ノ悲哀モホームシツクモ直ニ消毒セラレテ治癒スルデアロウ「マラカル」島ノ水量ニテハ不足ダカ彼山間ノ瀧水カ利用セラレテ製氷トナリ重油マシシン漁具船具等ガ販賣サル、日ガアルナレバ関稅ノ高下モ為替ノ悲惨モ忘レテ兄費<sup>マ</sup>減セラレ為メニ漁民モ又人間詮ノアルコトニ蘇生スルデアロウ

差當ツテ南進セントスル者ガ漁業権ナドノ特殊案ヲ先ヅ憂フル者ガアルガ夫レハ日本式デ餘リニ輕率デアル勿論領事館ナドデハ常ニ考ヘル様注意怠ラズデアルコトハ余モ識ツテイルガ自主外交ヲ缺イテイルカラデアルト考ヘル人口ノ多イ郷國ノ沿岸トハ全ク趣キヲ異ニシテイルノデ比較的楽ナ所テアル否有難イ所デアル蘭領印度ハ健康地帯テ暑熱甚シカラス物資ニ富メル幸福ナル住地ナルコトヲ告ケルモノデアアル



「バタバ」議會ニ於テ漁民排斥ノ論議ガ時々アル原因トシテハ土人漁民ノ生活ニ脅威ヲ興ヘル即チ市場競賣ニ當リ不利ナリトシ故意ニ針小棒大ノ宣傳ヲ行フ結果テアルガ注意スヘキコトテアル出来得ベクンバ此等ノ点ヲ避ケネバナラヌ可及的加工製品ニ改メ一頭彼等ヲ抜イテ販途ヲ改メルコトハ必要デアル夫レニハ漁撈ト共ニ製造販賣ヲ兼ネルコトニナリ範圍ノ擴張ニ準スル資本ヲ必要トスル宜シク資本家実業家ノ反省ヲ求メ曰ク罐詰曰ク魚糧曰ク塩魚曰ク冷蔵輸送等ヲ實現セシメルコトデアル

## 第二 資本的事業ニ適スル漁業

### (イ) 乾製品及罐詰類ノ歐米諸國向製品ノ調査

今後ノ漁業ハ種類ヲ問ハス資本的漁業デアラネバナラヌ過去現在込ハ都市ノ需用ヲ目的トシテ發達シタルモノニテ勿論小資本ニテ起業シ得タ故ニ人口壹萬以上ノ場所ニハ行キ涉ツテ經營セラレテイル既ニ餘地ヲ残サズルノ已ミナラズ土人ノ忌避政治上ノ議論サヘ見聞スルヨウニナツタ地方ニハ幼稚ナガラモ自給ノ為メニ漁業ガアルカラ販途ガナイ然ル故ニ加工製品或ハ生魚輸送ハ舉ニ出テナケレバナラヌ結果小資本ニテ過去同様ノ起業ハ全然不可能デアル世界ノ狀勢人類ノ要求ハ罐詰時代ト認メル而シテ原料タル鮪鰹ハ鮭鱒ニ代ツテ重大性ヲ有スル恐ラク近キ未來ノ市場ニテハ鰹鮪ノ天下ナルコトヲ注言スル即チ原料ガ豊富ナルカラデアアル佳肴アリト雖モ産額ニ乏シキハ世界的テナイ且ツ食料營養ノ目的ニ相應シクナイ兎ニ角ニ人心思潮ガ早ヤ其處ニ鰹鮪ニ傾イタ様デアルスノ如キハ歴史上ヨリモ實用カラム然カラネバナラヌ鰹節ノ如キハ魚族製品中殊ニ傑出シタル進歩ヲ見タルモノニシテ如何ニ先人ガ苦辛<sup>ム</sup>慘憺ヲ究メテ茲ニ至リシカヲ思ヒヤラル、モノデアアル現在南洋ノ各地ニ鰹魚ヲ焙乾シテ食料ニ供シテイルガ之レ乃チ取りモ直サズ製節ノ一步ニ相當シテイル之レニ比スレバ郷國ノ製節ハ實ニ驚クベキ世界的ノ優良品ト云ハネバナラヌ昔時ヨ

リ此等鯉鮪ヲ食料トシ重大性アリトシテ今日ニ至リシカハ幾百年前ヨリ松魚ヲ至尊ヘ奉納シタル事跡ノ言海ニ記サレテアル其通りニ明ラカテアル

此ノ高等魚族此優良魚カ世界的ニ賞用サルハ蓋シ偶然テナイ

魚粉魚糧ノ問題ハ就中重要テアル獨乙ノ約參拾萬噸英國ノ貳拾萬噸尚ホ「メキシコ」ヤ「アメリカ」ノ使用高ヲ計上スレバ年五拾萬噸ヲ超ヘルデアロウ植物ノ肥料タルヲ告ゲ進ンテ動物ノ飼料トシ的確ナルヲ論シタ今ハ然モ動物ノ營養料ナルヲ唱ラスニ至ツタ近キ世ハ百萬噸ヲ要求スルヤ必然テアル然ルニ今日尚ホ白色「ミール」ヤ黄色「ミール」等ノ品等ヲ言フモノアルモ恰モ米國ノ「シーチキン」ヲ賞用スルニ外ナラヌ色ノ白キヲ貴ブテウ單一ナル事様ニ属スル恐ラクハ其内營養價值ヲ論スルニ進ムモノト信スル即チ鯉鮪ニ進ムコトハ當然テアル理屈ハ抜キニシテモ多産額魚ノ副産物ニ待タネバ需用ヲ充タスコトガ出来ナイカラデアアル

支那ノ問題融解ノ日ニハ「セレベス」ノスルメ「ニューギネア」「シンガポール」附近ノ鰻「タネンバー」ノ「ナマコ」ナドモ旺盛ヲ極ムルニ至ラン

濠洲北東部ニ於ケル公海ノ眞珠貝ハ多大テアル殆ンド無盡蔵デアアル該貝ハ採取スルニ因リ新シキ貝ノ繁殖ヲ來タシ而シテ新シキ程介殼ノ高價ナルハ衆知ノ事ト思フ尚ホ念ノ為メ注意スルコトハ眞珠漁業トハ珠玉ヲ採取スル目的デナク高瀬貝ノ如ク介殼ヲ望ムノテアル稀レニ珠玉ヲ含有シアル時ハ一ノ掘出物トセラレテイルノテアル時下一ピコル(日本ノ百斤相当十六貫百廿七匁強)六十盾ニ下落シテイルガ過去ニハ百盾値段ガ永ク續イテイタモノデアアル南洋ニ於テ左ヨリ右ニ金二代ヘラルハ就中ノ品物デアアル「マカツサル」ヤ「シンガポール」ナレバ何時ニテモ担保倉入レガ出来ル程ニ有價確實ヲ認メラレテイル此ノ介殼ガ英魯ニ運バレテ色々ニ供用セラレテイル

此重大漁業ハ吾ガ日本人ノ潜水夫ニ由リ發達シタノデアアル同胞ガ「ダイバポート」ノ犠牲トナリ濠洲ノ「ポート」ヘラ

ン」附近ニ墓石トナツタ先人ハ四千人以上テアル同胞先輩ノ斯ノ如ク死力ヲ致シテ勵精努力シタル該漁業ノ今ヤ外人ノ為メニ掌握セラレ衰退ニ至リシハ看過スルニ忍ビサル残念デアアル一時八百名ヲ算ヘタル「アロウ」島ノ如キ實ニ三百名ニ減少シタ

肩巾八尺カ一丈ノ船（速力ノ遅キヲ貴ブ送風氣機ノ為メ二十五馬力カ十馬力位ニテ充分ナリ）ニテ大漁ノ時八月十噸ヲ漁スルノガアル實ニ有利有望ノ事業ニシテ確実性ガアル漁場タルヤ前述ノ如ク無限ニ存在シテイル敢テ識者ノ清鑑ヲ仰ク次第デアル

鯛ノ漁業モ有望テアル現ニ「ダバオ」ニ從事シテイラル大分懸人ノ産額ニ徴シテモ明カナル如ク然リ米國製ノ罎罐詰モ少カラズ此地ヘ運ハレテイル

歐米就中米國ニ於テ「アルバコニア」（トンボ鯛）ノ罐詰ガ賞味サレテイル彼等ハ何故ニ此鯛魚ヲ好ムヤヲ正シタルニ

一・ 鯛ノ正氣潑刺タルコト

二・ 游泳ノ高速ナル行動

三・ 體形ノ對稱美

四・ 清水中ニ游グ

五・ 蟲ヲ追テ空中ニ躍ル狀勢

以上ノ通り答ヘタル事ヲ或雜誌ニテ見タリ彼等カイカニ漁撈業ニ注意シイルカゞ感慨ニ耐ヘナイ而シテ「ホワイトミート」（ジンナガ）大サ十乃至十五ヨリ廿五平均十五封度「キワタ」鯛十乃至二百五十封度平均四五封度ヲ罐詰原

料ニ賞用シテイル黒鮪二百乃至二百五十封度平均四五十封度鯉三乃至二十平均入封度ヲ用ヒテイルガ漁撈法トシテハ「ケーブ」「サン」「ルーカス」ノ巾着網ノ外ハ凡ソ釣漁ニテ漁獲シイル今ヤ沿岸ニ漁事ナクニ千哩ノ遠航從事ヲ致シテイル近來鯉ノ香氣佳良ニシテ肉ノ暗色ナルヲ厭ヘストノ世評ヲ聞クニ至ツタ「サラダ」油漬或ハ「サンドウイツチ」向キニ使用セラレ「レストラン」向キニ良ナリトハヤサレテイル即チ鯉ノ組織美シク非常ニ美味ナル事ヲ稱ヘルニ至ツタ

罐詰業ニ於テハ米國ガ範ヲ有シテイル簡單ニ紹介シテ水産國諸公ノ考慮ヲ促シタイ從來拾萬円ヲ買ツテ參拾萬金ヲ利スルト告ケラルゝ米國ガ日本ヨリ原料ヲ求メ製品ヲ世界ニ販賣シイカニ活動スルカハ日本全人トシテ識ラネバナラヌト信スルカラテアル

フ井シユハーバー「タミナル」島ノ罐詰工場ハ臨海側ノ十七八工場ト「ツナストリート」「アルバコニアストリート」「カナリストリート」ナル漁人街ノ盛大ナル事ハ思ヒヤラレル程テアル然モ之等工場ノ職人ハ四千人ヲ算シ年平均産額百貳拾五萬箱ニシテ一封度入半封度入ノ貳種カアル價格約七百五十萬弗製法トシテハ二百十二度乃至二百十四度ノ温ニ時半乃至六時間モ煮沸シ十二時間乃至廿四時間モ放置冷却シ硬固セシムル而シテ手指ヲ使用シテ骨抜ヲナシ四ツ割ニナシ罐ニ詰メ油ト塩トヲ伍加ス之ニハ精製棉実油ニ用ヒ二百四十度ノ温熱ニテ九十分間ノ殺菌法ヲ行フノテアル

1927年	1928年	1929年
1, 227, 013箱	1, 210, 363箱	1, 414, 416箱
1912年	1913年	1914年
75, 900箱	77, 500箱	217, 400箱

以上ノ如ク長足ノ進歩ヲナシ其内鮪鯉ノ時代ヲ滲出シツゝアル  
 南洋ノ一例トシテ「シンガポール」ニ於ケル魚族取引状況ヲ見ルニ

鯉	1.00 仙	鮭	54 仙	ヒシコ	31 仙
車エビ	97 仙	狼鯪	47 仙	ヤウ	33 仙
赤鯛	57 仙	鯨	29 仙		
鱈	55 仙	赤エイ	11 仙		

相場ノ變換ハ免レサルモ凡ソ斤當リ貳拾五錢見当ニテ取引セラレ税金五分手数料五分ヲ要スルガ「マーケット」ノ調査  
 ニヨレバ年約四百拾萬弗賣買サレテイル而シテ此外ニ輸入壹千五百萬ニ至ルヲ以テ百萬ヤ百五十萬弗ノ鮮魚ヲ送ルニ  
 足リルヲ考フルモノテアル  
 輸入地ハ北「ボルネオ」、「サラワク」、錫倫、香港、支那、佛領印度支那、日本、「スマトラ」、「シヤム」、等ナルガ  
 輸出地モ又以上同ジデアル

塩魚相場

	1925年	1926年	1927年	1928年
ヘビカシラ	36	45	36	38
車エビ	75	79	79	86

	鯨	イカ	鱈	鮭
● 「魚編に某」 <sup>6</sup>	33	47	38	33
	36	43	40	36
	34	42	40	35
	33	84	39	35

現在ノ南洋ニ於テハ輸入コソアレ魚族ノ輸出ハ皆無テアル而シテ鮪ノ原料トシテハ就中賞味サル、  
「キワタ」(系鮪)ノ多存スル事ハ味フベキ事デアル米國ニテ「トンボ」ト系鮪(キワタ)ノ兩種ガ賞味サル、カラデア  
ル

(未完)